

週報

日本キリスト教団

みなみやま

南山教会

<年間聖句>

「わたしにつながっていないさい。」

わたしもあなたがたにつながっている。」

(ヨハネによる福音書15章4節)

<年主題>

私たちを結び合わせてください



Since 1947. 8. 1. 創立75周年

〒470-0111

愛知県日進市米野木町南山983-16

(愛知牧場内)

牧師 村山盛芳

副牧師 三好祐輝

TEL 0561-73-6781 FAX 0561-76-3005

教会メールアドレス minamiyama@mb.ccnw.ne.jp

HP www.mb.ccnw.ne.jp/minamiyama/

先週の説教から

「主の恵みの到来」

ルカによる福音書4章16~30節

故郷に帰ったイエスは、安息日にユダヤ教の会堂に入り、預言者イザヤの巻物を手渡されます。イエスがイザヤの巻物を手渡されたというのは、「救い主」を待ち望む代々の民の思いを、お引き受けになったということです。不安と絶望の中で「主の恵みの年」を告げ知らせてくださるということです。預言の解き明かしは、今こそ貧しい人に福音が告げ知らされ、捕らわれている人には解放が、目の見えない人には視力の回復が、圧迫されている人は自由にされる時だということです。イエスがここにおられ、その口から直接み言葉が語られる時、預言の成就、実現が起こっているということです。代々の預言者が待ち望み、世界の民が求め続けてきた救い主が今目の前に立っておられ、その恵みを語ってくださっているのです。

恵みの言葉は私たちがその通りだと、今受け入れなければ、「私にとっての実現」とはなりません。ナザレの人々は、恵み深い言葉に驚きながらもこう言うのです、「この人はヨセフの子ではないか」。彼らはイエスについて知っていましたが、そのことが妨げとなって、イエスがまことの神でもあるということが見えませんでした。自分たちが抱いていた理想のメシア像とはあまりにもかげ離れているイエスが、なぜ救い主なのか分からないのです。私たちも、イエスを理解したつもりになりながら、主を崖から突き落とすに等しいような信仰の過ちを犯してはなりません。いつも新しく恵みのみ言葉に生かされ、悔い改めに導かれ、新たに造りかえられていくのです。

イエスが十字架の苦しみを通してもたらされたのは「主の恵みの年」です。私たちは、「恵みの年」に目を開かされ、その到来を喜び、祝い、宣べ伝えるのです。「恵みの年」が、神の国においてまことに完成することを祈り求めつつ働く中で、今日という日に足跡を残す、自分のささやかな歩みにも、確かな意味を見出すことができます。(村山盛芳牧師)

1101111・1・119

午前九時半

№117511

午前11時

降誕祭大出口
公現後祭大出口

前奏

讃栄

119 (天のめいめ)

主の祈り

同前和

聖書

ルカによる福音書 111章

1~9節 (新約151頁)

讃業歌

141 (主よ、わが助けよ)

祈禱

説教

「新しい神殿」

祈禱

村山盛芳牧師

今週の誕生者のための祈禱

讃業歌

511 (主よ、救われよ)

献金

感謝祈禱

司会役歌

讃栄

117 (父・子・聖霊の)

祝禱

後奏

... 報知 ...

主の祈りと同前和の御礼を申し上げます。
献金は必ずお預りください。
讃業歌は1節のみ歌ってください。

礼拝の動画配信QRコードはこちら。
届いた後はお戻りください。

